

## ウィーンの忘れられない思い出 —エルバラダイ事務局長、ソフトボール、スケッチ—

前JAEA所長 杉本 純

日本原子力研究開発機構（原子力機構）のウィーン事務所長として、2004年3月から3年間ウィーンに駐在した。思い出は数々あるが、2005年に東京で開催した原子力機構統合記念式典のため、エルバラダイIAEA事務局長に広報を通じビデオ・メッセージをお願いした件が忘れられない。期限が迫っても返事がなく一向に埒があかない。あるパーティーに出席したらご本人がたまたまおられたので、直接突撃依頼して快諾を得た。ビデオ入手直後に氏のノーベル平和賞受賞発表があったため、その後は超多忙で無理だったろうから間一髪だった。10月に経団連ホールで開催された式典では、外国からの祝辞のトップに氏のビデオが写った瞬間、600人を

超える聴衆から大きなどよめき起きたと後から聞いた。

30年来草野球を楽しんで来たこともあり、日本人会主催のソフトボール大会には加藤「蓬莱閣」店長(当時)が率いるGOT(グレートおじさんチーム)のメンバーとして参加した。2005年秋の大会では、名誉四番の筆者を含めクリーンアップ全員が50代だったが、フェニックスを破り奇跡の優勝を果たした。



第1回国際ソフトボール・リーグで優勝

2006年春から始まった国際ソフトボール・リーグでは、日本人会ソフトボールの名選手を集め、「チームジャパン」監督として参加した。リーグ戦では8チーム中5位と苦しんだが、決勝トーナメントでは見事優勝して監督胴上げとなった。決勝では1番、センターで選手としても貢献した。リーグ戦で3試合連続サヨナラ負けを喫し、その日の残念会で皆と遅くまで対策を練ったのが昨日のここのように思い出される。

この他、テニス、バドミントン、スキー、音楽（国立オペラ座、楽友協会）なども楽しんだが、絵画も昔からの趣味であり、美術史博物館を始め多くの美術館を堪能するとともに、ウィーンの街角でよく水彩画を描いた。対象を良く見て描くので建物の窓の数まで自然に覚えてしまう。また、これらの絵を見ると描いた時の心境まで今でも思い出す。スケッチ中に人から話し掛けられることもある。多くは子供やおばさんであるが、シェーンブルン宮殿を描いていたら、米国出身の女子画学生から「自分も絵を描いている」と話し掛けられたのは珍しくも楽しかった。素人画で恐縮であるが、ウィーンで描いた絵を何点か最後にご紹介させて頂く。雰囲気は少しでも伝われば幸いである。



シェーンブルン宮殿



新市庁舎



ヴォテューフ教会



ペーター教会



美術史博物館



ラクセンブルク宮殿



モーツアルトハウス

<杉本 純 (すぎもと・じゅん) >

日本原子力研究開発機構原子力研修センター長。2004年3月から2007年3月までウィーンに駐在。妻と2年間、次女とは3ヶ月ウィーンに暮らす。

編集者より：杉本純氏の作品を他のページにも掲載しております。お楽しみください。